

モンゴル国国家大会議の招待による同国公式訪問参議院副議長一行報告書

団	長	参議院副議長	郡司	彰
		参議院議員	岡田	直樹
		同	西田	実仁
		同	榛葉	賀津也
		同	蓮	舩
		同	市田	忠義
同	行	委員部長	木下	博文
		副議長秘書	桐谷	淳司
		参事	西島	正太
		同	柴崎	直子

一、始めに

郡司副議長一行は、平成三十年十月一日から五日までの間、ミエーゴンボ・エンフボルド・モンゴル国国家大会議議長の招待により、モンゴル国を公式訪問した。

二、訪問日程

十月一日（月）東京発

十月二日（火）ウランバートル着

エンフボルド国家大会議議長との会談

ハルトマー・バトトルガ大統領への表敬

在留邦人等との昼食懇談会

日本人死亡者慰霊碑での献花

ウランバートル視察

エンフアムガラ副議長主催歓迎夕食会

十月三日（水）新モンゴル学園視察

モンゴル日本議員連盟との昼食会

ウランバートル郊外視察

十月五日（金）ウランバートル発 東京着

三、モンゴル国

（一）モンゴルの議会制度と政治経済事情

モンゴル国国家大会議は一院制であり、定数七十六人（小選挙区制）で、任期四年である。

二〇一六年の総選挙では、野党であった人民党が国家大会議の七十六議席中六十五議席を獲得し圧勝したが、二〇一七年の第七回大統領選挙では、野党・民主

党推薦のバートルガ候補が勝利し、大統領と国家大会議多数派との間で政党が異なる「ねじれ」現象が生じている。

経済は、民主化以降、市場経済化に向けた構造改革を推進し、一時的にマイナス成長があったものの、順調に発展してきた。しかし、資源ナショナリズムを背景とする制限的な対モンゴル投資政策や法律の制定により、対モンゴル外国投資が激減したほか、中国の景気減速や世界的な資源安の影響により主要産業の鉱業が不振となり、二〇一五年、二〇一六年と経済成長が落ち込んだ。こうした厳しい状況を踏まえ、モンゴル政府は二〇一七年に国際通貨基金との間で拡大信用供与措置の受入れに合意し、同措置に基づく財政政策、金融政策及び銀行の改革に取り組んでいる。

外交・安全保障については、隣国である中国及びロシアとのバランスの取れた外交関係を展開しながら、両隣国に過度に依存することなく、「第三の隣国」との関係を発展させることが外交政策の基本となっている。

我が国との二国間関係では、一九七二年に外交関係を樹立し、二〇一七年に外交関係樹立四十五周年を迎えた。一九九〇年のモンゴル民主化以降、我が国はモンゴルの民主化、市場経済化を当初から一貫して支持し、二〇一〇年には「戦略的パートナーシップ」構築を共通の外交目標に掲げ、二〇一六年には経済連携協定（EPA）を締結している。

参議院との議会間交流は、一九七四年に初めて参議院議員団が公式訪問等を行う一方、モンゴル側からも議長一行が参議院招待等により累次訪日している。近年では二〇一七年に、衆議院招待により訪日したエンフボルド議長が伊達議長（郡司副議長同席）と、本年は、エンフアムガラ副議長が郡司副議長とそれぞれ会談を行っている。なお、衆議院では二〇一七年に、大島議長がモンゴルを公式訪問している。このほか、双方の友好議員連盟でも活発な交流が行われている。

（二）エンフボルド国家大会議議長との会談

一行は、国家大会議を訪問し、エンフボルド国家大会議議長と会談した。

エンフボルド議長は、冒頭、一行を歓迎するとともに、第三の隣国である日本との友好・協力関係が、全ての分野において成功裏に発展していることを喜ばしく思うと述べた上で、両国間の関係が戦略的パートナーシップのレベルに到達し、あらゆる分野、民間やNGO間、地方間の交流も発展していることに満足している旨述べた。

また、エンフボルド議長は、両国関係の中で議会間の協力は重要であるとし、二〇一七年の大島衆議院議長のモンゴル訪問及び自身の訪日、一行の今次訪問等、ハイレベルの往来が恒常化していることに言及し、二国間協力の拡大に課題があれば、国家大会議として解決に尽力する旨述べた。

さらに、エンフボルド議長は、二国間協力について、日本政府がモンゴルの課題解決のために行っている支援に感謝し、IMFの拡大信用供与プログラムの枠組みにおいて、財政や経常収支改善のために、日本政府が八・五億米ドル相当の

借款供与を決定したことに触れ、二〇一七年に両国外務大臣間で署名された「モンゴル・日本中期行動計画」が成功裏に実施されるよう国家大会議として注視しているとともに、二〇一六年に締結されたEPAが、両国間の貿易・経済協力と貿易拡大を目指す上で重要な意義を有する旨述べた。

これに対し郡司副議長は、まず、国家大会議の公式招待に謝意を表明した上で、「平成三十年七月豪雨」に際し、モンゴル政府が義援金寄附の決定をしたことに、感謝の意を改めて述べた。

また、郡司副議長は、モンゴルが一九九〇年に民主化、市場経済化を指向し、両国が今日の「戦略的パートナーシップ」を構築するに至るまで、様々な分野で一貫してすばらしい友好関係を発展させてきていることをうれしく思うとともに、我が国との関係発展に対するモンゴル国の尽力に敬意を表する旨述べた。

さらに、郡司副議長は、今次訪問が両国の議会間・議員間交流の歴史にとって非常に重要な意義があり、「国民の代表である両国の議員が、お互いに抱える問題について意見交換することで友好関係を深めることができる」とのエンフボルド議長の訪日時発言に同意した上で、課題が生じた際には互いに胸襟を開き、率直に意見を交わすことで、本物の友情が育まれると確信するとの考えを示し、今後も両国国民のため、議会間・議員間の交流を一層促進し、よりよい関係が持てるよう自らも微力ながら努めたい旨述べた。

このほか、二〇二〇年東京オリンピック、二〇二五年万博の大阪誘致、スポーツ交流等について意見交換を行った。

その後、一行は議場を見学した。

(三) バトルガ大統領への表敬

引き続き、一行は、バトルガ大統領を表敬訪問した。

郡司副議長は、冒頭、モンゴル国を公式訪問でき、大統領を訪問できることに謝意を表明した上で、「平成三十年七月豪雨」に際し、モンゴル政府が義援金寄附の決定をしたことに、感謝の意を改めて表明した。

引き続き、郡司副議長は、モンゴル国が一九九〇年に民主化、市場経済化を指向し、両国は戦略的パートナーシップを構築するまで友好関係を発展させてきており、政府間と同様に議会間・議員間においても親密、友好的な関係を構築している中で、今次訪問でもエンフボルド議長、エンフアムガラン副議長、モンゴル日本議員連盟と交流を温める機会を頂いたところ、今後もモンゴルを初めて訪問する議員の数を増やし、議員として両国交流の発展に貢献したい旨述べた。

また、郡司副議長は、参議院ではODAの有効性についての検証を毎年行っており、モンゴルでも参議院ODA調査団の調査に協力いただき感謝するとともに、モンゴルでは、日本のODAが国民に広く認識され、高く評価されているとの認識を示し、取り分け両国の人的交流を促進するという観点でも、新ウランバートル国際空港が早期に運用を開始することを期待している旨述べた。

バトルガ大統領は、一行のモンゴル国訪問を歓迎した上でこれまでの日本の

支援に触れ、一九九〇年代に建設された「ゴビ」工場のおかげで、カシミヤを輸出し、遊牧民の現金収入の源となり、国内でも大きなブランドになっていること、ダルハン製鉄所の建設により、鉄くずを加工して鉱物資源を輸出することが可能になったことを紹介した上で、最近の大規模事業として、円借款により建設中の新ウランバートル国際空港開港が待ち遠しく、新空港は観光分野での両国協力に貢献すると確信している旨述べた。

このほか、モンゴルの今後の発展可能性、中露両国との関係、スポーツ交流等について意見交換を行った。

なお、会談に際し、大統領よりウランバートル郊外視察の提案があったところ、一行は、翌三日午後にウランバートル郊外トゥブ県を訪問し、名所となっているチンギス・ハーン像等を視察した。

(四) 在留邦人等との昼食懇談会

一行は、原田紀H I S・M o n g o l i a・L L C社長、細川昌彦ユニメディア・ソリューションズCEO、佐藤睦独立行政法人国際協力機構モンゴル事務所長、浜島博章三菱商事ウランバートル駐在事務所長、濱田達弥モビコム会長兼CEO、ナサンプレグ・バトバヤル双日モンゴル駐在員事務所長及び豊田光明セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン・モンゴル事務所長と懇談を行い、現地における日系企業の進出状況、企業運営の課題、日本人子弟の教育環境等について意見交換を行った。

(五) 日本人死亡者慰霊碑での献花

一行は、かつての抑留者埋葬地の一つで、八百三十五柱の御遺骨が埋葬されていたダムバダルジャーの丘にある慰霊碑に献花を行った。

慰霊碑は、二〇〇一年に、厚生労働省、モンゴル赤十字社及びウランバートル市当局が建立し、現在、維持・管理は、厚生労働省がモンゴル赤十字社に委託している。

(六) エンフアムガラン副議長主催歓迎夕食会

一行は、イフテンゲル迎賓館でのエンフアムガラン国家大会議副議長主催夕食会に招かれ、同副議長、ビレクト議員、オンダルマー議員、バーサンフー議員、ガンボルド議員等と懇談を行った。同夕食会では馬頭琴の演奏等の文化鑑賞も行い、政治のみならず、文化等についても幅広く意見交換が行われた。

(七) 新モンゴル学園視察

一行は、ガルバドラフ理事長が日本留学後の二〇〇〇年に、山形、宮城両県民を中心とした日本人有志の支援等によりウランバートル市内に創設し、国際水準の教育を目標に日本語教育・日本式の教育を取り入れている、小中高一貫の私立学校である新モンゴル学園を視察した。

一行は、ナランバヤル校長の案内により、校内を視察するとともに、日本の高校二年生及び三年生に当たる在校生等と、キャリア形成、食糧問題等について、日本語で意見交換を行った。

(八) モンゴル日本議員連盟との昼食会

一行は、モンゴル日本議員連盟のボルド副会長、ムンフツェツェグ議員、オヨンチメグ議員等と懇談を行い、両国議会間・議員間交流、人的交流、生活文化等について意見交換を行った。

四、終わりに

一行は、モンゴル国国家大会議の周到な準備、適時適切な懇切な対応により、一連の要人との会談等多くの日程を行うなど、議会間交流の実を大いに上げることができた。今次訪問が、我が国とモンゴル国との友好親善関係の一層の深化に貢献できたものと信じるものである。

ここに末尾ながら、モンゴル国国家大会議事務局を始めとする関係機関、関係者各位に改めて深謝するとともに、高岡正人駐モンゴル大使を始め、在モンゴル日本大使館の支援についても特記し、厚くお礼申し上げます。

なお、当初の計画では、モンゴル国の日程終了後、一行は、キルギス共和国を経由し、ウズベキスタン共和国最高会議上院の招待により、同国を公式訪問する予定であったが、フライトの遅延・キャンセルにより、取りやめることとなった。